

# 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

## ●施策3-1の代表指標

### ①延べ宿泊客数

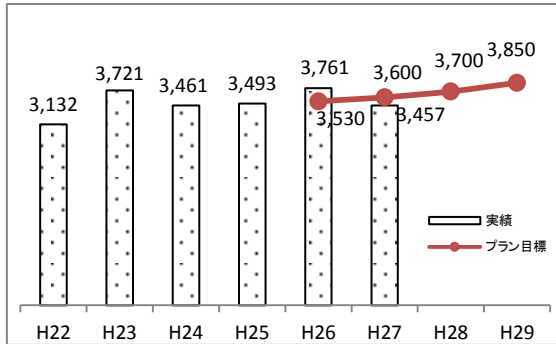
#### ■年度別目標

H27達成率(96.0%)

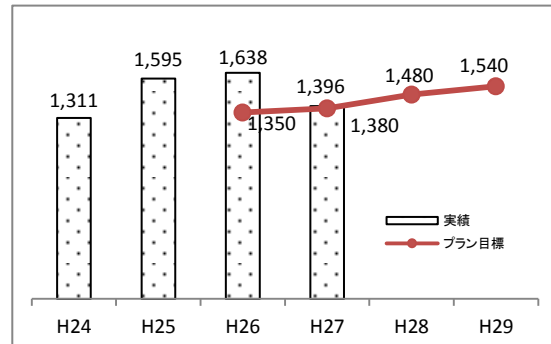
(単位:千人)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	3,461	3,530	3,600	3,700	3,850
実績値		3,761	3,457	—	—

#### 代表指標の推移



#### (参考)関連指標・観光消費額(単位:億円)



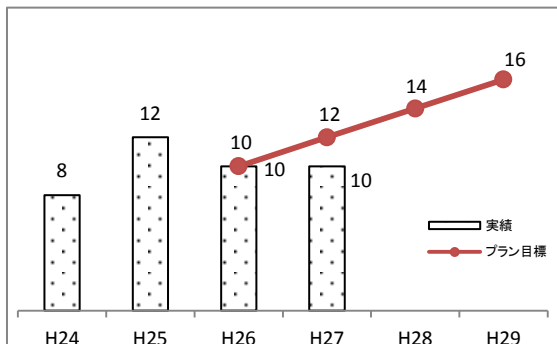
### ②全国規模の大型コンベンションの開催件数(県外宿泊客おおむね500人以上)

#### ■年度別目標

H27達成率(83.3%)

(単位:件)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	8	10	12	14	16
実績値		10	10	—	—



## 代表指標の達成度に関する分析

### 【代表指標①】延べ宿泊客数

### 【代表指標②】全国規模の大型コンベンションの開催件数(県外宿泊客おおむね500人以上)

・延べ宿泊客数については、平成26年までは増加傾向であったが、平成27年実績は前年度から304千人減少し、目標値を4%下回っている。要因としては、デスティネーションキャンペーンや国民文化祭といった大きな誘客キャンペーンの終了に伴い減少したほか、北陸新幹線開通等の影響も考えられる。

・全国規模の大型コンベンションの開催件数については、平成27年は前年と同数であったが、目標を達成することはできなかった。

・今後は、平成29年4月から6月に実施する「JR東日本重点販売地域指定に伴う大型観光キャンペーン」や、国内外における知名度が高い秋田犬をキラーコンテンツとする集中プロモーション等を積極的に展開することにより、目標の達成を目指していく。

# 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

## ●施策3-2の代表指標

### ①食料品・飲料等の製造品出荷額等

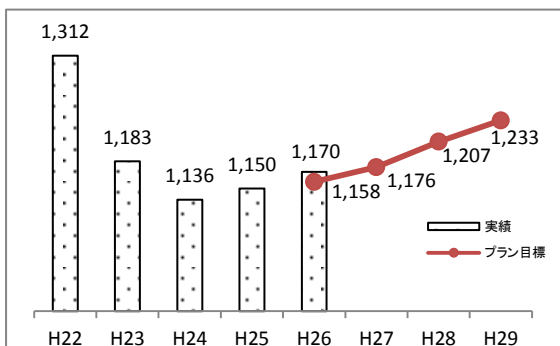
#### ■年度別目標

H26達成率(101.0%)

(単位:億円)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	1,136	1,158	1,176	1,207	1,233
実績値		1,170	—	—	—

※工業統計調査結果(H28公表予定)等が未定のため、H26実績



### ②農産物・加工品の輸出金額

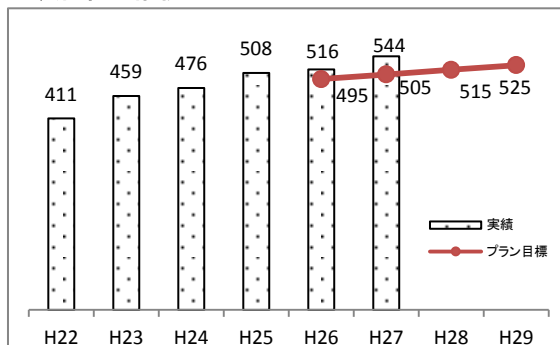
#### ■年度別目標

H27達成率(107.7%)

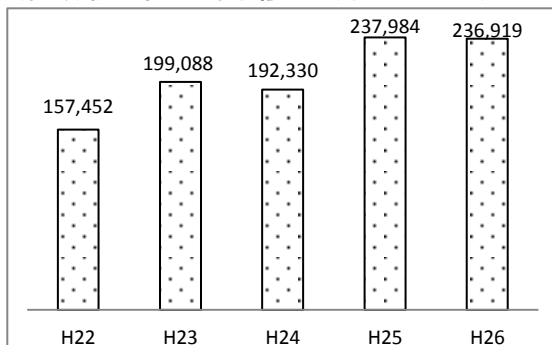
(単位:百万円)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	476	495	505	515	525
実績値		516	544	—	—

#### 代表指標の推移



#### (参考)秋田県の日本酒輸出量(単位:リットル)



## 代表指標の達成度に関する分析

### 【代表指標①】食料品・飲料等の製造品出荷額等

・平成25年から回復基調にあり、平成26年の実績は1,170億円と平成25年の1,150億円と比較して20億円増となっており、目標を達成している。ただし、平成26年の都道府県別順位では44位となっている。

### 【代表指標②】農産物・加工品の輸出金額

・日本酒などを中心に増加傾向にあり、平成27年度も544百万円と目標を上回った。目標を達成できた要因としては、日本酒等のプロモーションや現地商談会などにより、本県特産品の認知度が向上し、販路が拡大してきていることなどが考えられる。

# 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

## ●施策3-3の代表指標

### ①主要文化施設への入場者数

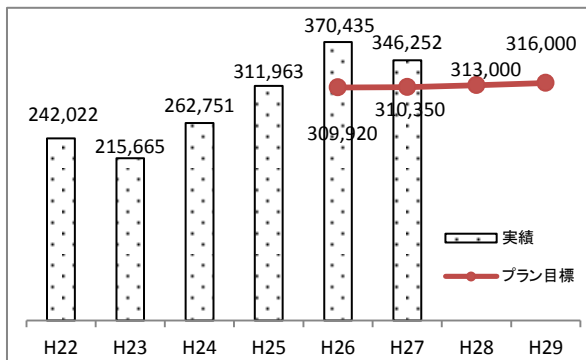
#### ■年度別目標

H27達成率(111.6%)

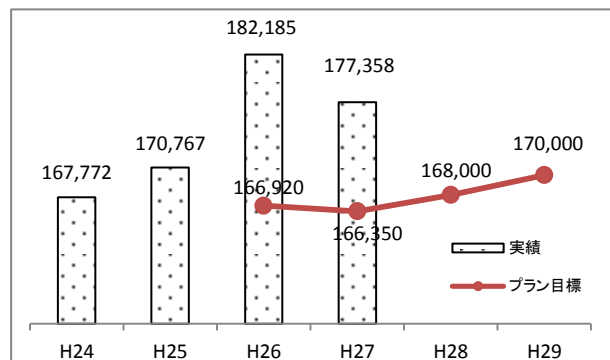
(単位:人)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	262,751	309,920	310,350	313,000	316,000
実績値		370,435	346,252	—	—

#### 代表指標の推移



(参考)関連指標・秋田県民会館大ホール入場者数(単位:人)



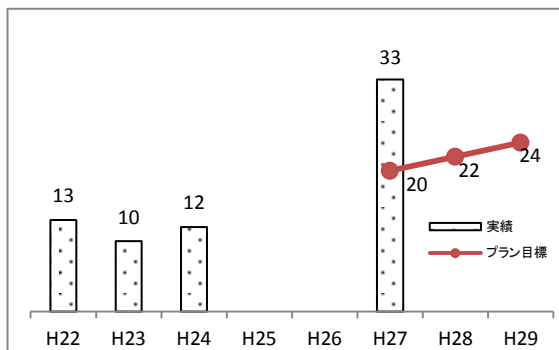
### ②「あきた県民文化芸術祭」参加団体数

#### ■年度別目標

H27達成率(165.0%)

(単位:団体)

	基準値(H24)	H26	H27	H28	H29
目標値	12	—	20	22	24
実績値		—	33	—	—



## 代表指標の達成度に関する分析

### 【代表指標①】主要文化施設への入場者数

・国民文化祭の開催直後の年度のため、数値の大幅な減少が懸念されていたが、「あきた県民文化芸術祭」の開催などにより、多くの文化団体が活発に活動した結果、県民会館大ホールやアトリオン音楽ホールが引き続き活用されたことで目標数値を上回ることができた。

県民会館大ホール 目標:166,350人 → 実績:177,358人

アトリオン音楽ホール 目標:44,000人 → 実績:44,759人

県立美術館 目標:100,000人 → 実績:124,135人

### 【代表指標②】「あきた県民文化芸術祭」参加団体数

・(一社)秋田県芸術文化協会などの参加呼びかけの協力もあり、目標を上回る33団体の参加があった。

# 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

## ●施策3-4の代表指標

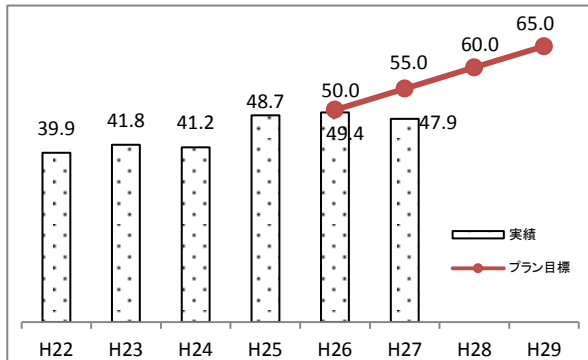
### ①成人の週1回以上のスポーツ実施率

#### ■年度別目標

H27達成率(87.1%)

(単位: %)

	基準値(H25)	H26	H27	H28	H29
目標値	48.7	50.0	55.0	60.0	65.0
実績値		49.4	47.9	—	—



### ②国体における天皇杯得点

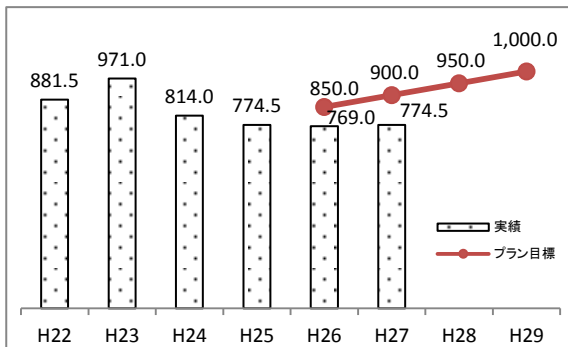
#### ■年度別目標

H27達成率(86.1%)

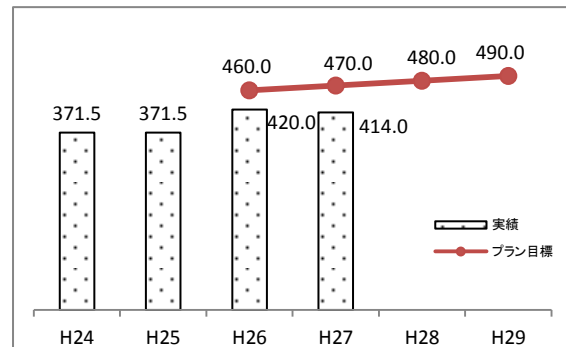
(単位: 点)

	基準値(H25)	H26	H27	H28	H29
目標値	774.5	850.0	900.0	950.0	1,000.0
実績値		769.0	774.5	—	—

#### 代表指標の推移



#### (参考)関連指標・皇后杯得点(単位: 点)



### 代表指標の達成度に関する分析

#### 【代表指標①】成人の週1回以上のスポーツ実施率

・平成24年から増加傾向が続いていたが、平成27年は前年より若干低下し、目標を上回ることができなかった。

目標を達成できなかった要因としては、男女とも30～40歳代の子育て世代が各年代を通して依然低率な傾向にあり、特に40代男性の減少が著しいことから、当該世代を中心としたスポーツ活動の場の設定や機会が十分でなかったと考えられる。

#### 【代表指標②】国体における天皇杯得点

・平成23年山口国体からの減少傾向が止まり増加に転じたものの、目標を下回った。目標を達成できなかった要因としては、少年種別得点の減少傾向が大きく影響していることから、秋田県体育協会や競技団体とともに、中学生強化選手と高等学校強化拠点校が連携した一貫指導体制を確立するなど、ジュニア選手の更なる強化に取り組む必要がある。

# 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

## ●施策3－5の代表指標

### ①県内高速道路の供用率

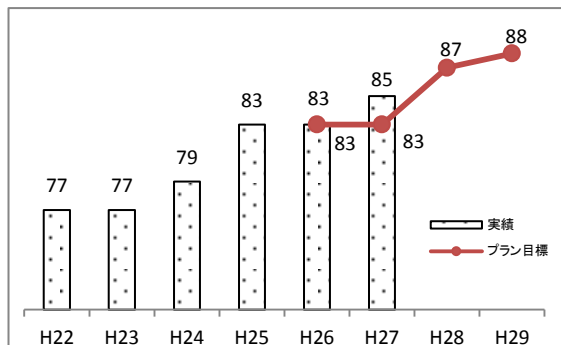
#### ■年度別目標

H27達成率(102.4%)

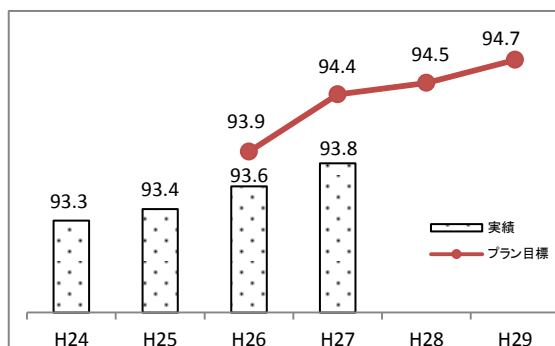
(単位: %)

	基準値(H25)	H26	H27	H28	H29
目標値	83	83	83	87	88
実績値		83	85	—	—

代表指標の推移



(参考)関連指標・県管理国道改良率(単位: %)



### 代表指標の達成度に関する分析

・県内高速道路の整備促進を官民一体となって毎年国へ強く働きかけていることや、県としても平成24年度から県道大館能代空港線鷹巣西道路に着手するなど、国と一体となって高速交通体系の整備を進めていることなどにより、県内高速道路の供用率は85%と目標値を上回り、東北では2位の実績となっている。

・今年度は、日本海沿岸東北自動車道「鷹巣IC～二井田真中IC」間、東北中央自動車道「院内道路」が開通し、平成29年度には日本海沿岸東北自動車道「あきた北空港IC(仮)～鷹巣IC」間が開通を予定しており、最終的にも目標を達成できる見通しである。

## 【未来の交流を創り、支える観光・交通戦略】

### ●施策3－6の代表指標

#### ①秋田県と県外間の旅客輸送人員

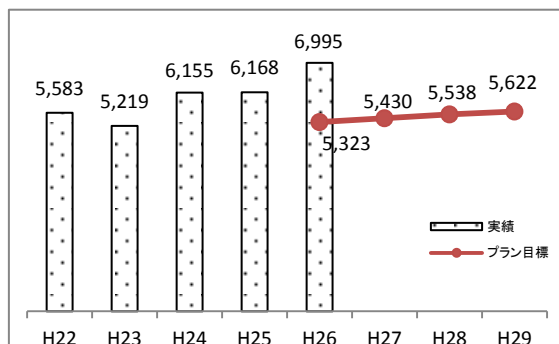
##### ■年度別目標

H26達成率(131.4%)

(単位:千人)

	基準値(H23)	H26	H27	H28	H29
目標値	5,219	5,323	5,430	5,538	5,622
実績値		6,995	—	—	—

※旅客地域流動調査(国土交通省)が未定のため、H26実績



### 代表指標の達成度に関する分析

・秋田県と県外間の旅客輸送人員は平成23年度に5,219千人と、東日本大震災の影響で一時的に落ち込んだ(前年比364千人減)が、その後は順調に増加し、平成26年度は6,995千人と目標を達成している。航空利用では、平成27年度に秋田空港で国内線1,203千人(前年比102.6%)、大館能代空港で124千人(同103.6%)と、両空港とも前年を上回る利用者があった。JR利用に関しても、JRが公表している路線別利用状況によると、こまちが通過する田沢湖線の通過人員(平成26年度)は約250万人と前年から微増している。

・第三セクター鉄道では、様々な利用促進策により、県外、台湾からの鉄道利用者は増加しているものの、地域住民等の利用の落ち込みから全体としては減少している。